

道徳的価値について自分との関わりで考えを深める児童の育成

—「特別の教科 道徳」における見通しと振り返りの工夫を通して—

【教科・領域】道徳 【対象】2学年 【教材名】ぐみの木と小鳥
【主題】だれにでもやさしく 【内容項目】親切、思いやり（B-6）

平成30年度 前橋特別研修研究員
前橋市立わかば小学校 神澤 憲明

【児童の実態】

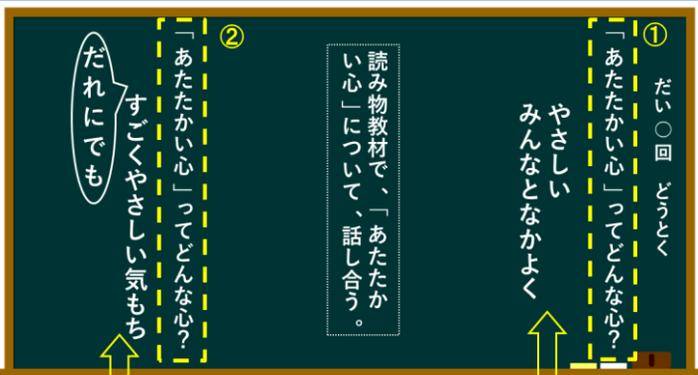
道徳の授業で、どんなことを考えるのか見通しをもてていない。読み物教材の登場人物の心情を理解することはできるが、道徳的価値について自分と重ね合わせて考えることができていない。

【指導の課題】

ねらいがあいまいで、読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏ってしまふ。

道徳的価値について自分との関わりの中で考えを深める児童を育てるためには、**価値への方向づけ**を行い学習の見通しをもたせたり、**価値についての変容を自覚させ自分自身を振り返らせたりする手立てが必要だ**と考えました。

【手立て1】見通しの工夫(導入) 「道徳的価値に関わる問い」を行い、黒板の右側(①)と左側(②)の二か所に明示した。そのことにより、「本時でどんなことをどのように学ぶのか」という学習の見通しをもたせることができるようにした。



展開前段で高めた道徳的価値

導入時の道徳的価値

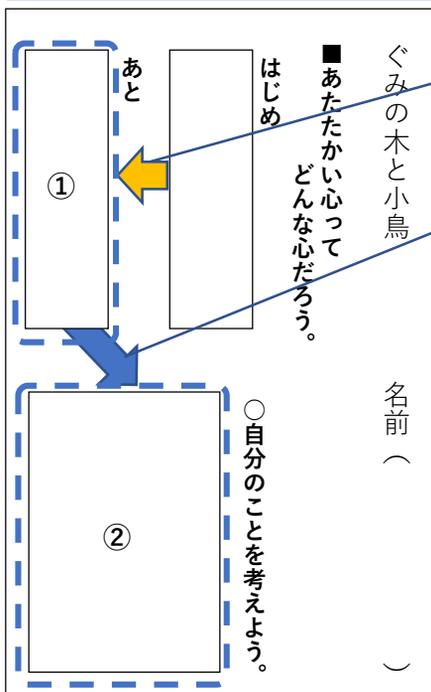
「あたたかい心」ってどんな心だと思いますか。(板書①)

やさしい気持ちのことかな…。でもよく分からないな。

では、みんなで「あたたかい心」について考えていきましょう。みんなで考えた後、自分を振り返ります。(板書②)

みんなで、「あたたかい心」について考えるのだな。どんな心だろう。

【手立て2】振り返りの工夫(展開後段) 教材での話し合いを通して考えた「道徳的価値に関わる問い」について改めて問い直し、価値についての変容を自覚させた。そのことにより、話し合いを通して展開前段で高めた道徳的価値の視点から、自分自身を振り返ることができるようにした。



はじめとあとを比較させ、価値についての変容を自覚させた。

高めた道徳的価値の視点から、自分自身を振り返らせた。

振り返り(ワークシート②の記述より)

公園にあそびに行ったとき、小さい子がなかった。知らない子だったけれど、「だいじょうぶ?」って言って、いっしょにお母さんをさがしてあげた。

【成果】

見通しをもって教材を読み、道徳的価値について自分の考えを発言できる児童が多くなった。展開前段で高めた道徳的価値の視点から、自分を振り返ることができる児童が多くなった。

【課題】

教材によっては、道徳的価値に関わる問いが、抽象的になりすぎてしまうことがある。児童の実態に合った問いの立て方を工夫する必要がある。